

スポーツ庁 御中

スポーツ国際展開基盤形成事業
（国際競技大会の在り方に関する調査研究）
事業報告書（サマリー）

EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社

2022年3月31日

持続可能性については近年ますます重要度が高まっており、国際競技大会でも持続可能性の取組は必要で、怠った場合は批判されるリスクが高まっています。

国際的な潮流

SDGsは、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択され、近年、注目度が増しています。17のゴールのうち、国際的に特に注目度が高い持続可能性に関する課題は以下の通りです。



国際的に特に注目度が高い持続可能性に関する課題とSDGsのゴール

地球環境	気候変動対策	
	生物多様性対策	 
	資源	   
社会	人権	    
経済	ガバナンス	  
パートナーシップ		

持続可能性に関するリスク

グローバルな社会課題に取り組む国際NGO等は、持続可能性の取組に積極的でない団体に対し、けん制やネガティブキャンペーンを実施する場合があります。国際競技大会も国際NGOのターゲットになっており、持続可能性の取組を怠った場合、国際的に大きな批判的圧力を受けることがあります。

インドネシアにおける熱帯林の伐採が 東京2020大会の競技会場建設に関連

概要

- 国際的な環境NGOのレインフォレスト・アクション・ネットワーク（RAN）は、海外企業グループによるインドネシア・マレーシアでの木材伐採が、貴重な熱帯林の破壊、生物多様性の損失、地域コミュニティの権利侵害を引き起こしており、当木材は東京2020大会の会場建設に利用された疑いがあると指摘。

事業者への影響

- RANは東京都に通報し、説明責任を求め、組織委員会が定める調達基準にも違反していると批判した。
- 当木材を取り扱った、国内の林業・木材・製紙会社等の関連する取引企業にも責任があるとして実名を挙げて批判した。

(出所) RAINFOREST ACTION NETWORK

リスク

国際競技大会における持続可能性の取組領域

国際的な潮流、IOCやIF等の持続可能性の戦略・方針等から、国際競技大会で重要な領域となる持続可能性の取組を理解することが可能です。

IOCやIF等の持続可能性の戦略

IOC サステナビリティ戦略

(出所) IOC HP



持続可能性の重点領域

- ・ インフラと自然
- ・ 調達と資源管理
- ・ モビリティ
- ・ 労働
- ・ 気候変動



IOC オリンピックアジェンダ 2020+5



提言 2 :

- ・ 持続可能なオリンピック競技大会を促進する

提言 10 :

- ・ 国連の持続可能な開発目標の重要な実現手段としてのスポーツの役割を強化する

FIFA W杯カタール2022 サステナビリティ戦略



持続可能性の領域

- ・ 環境
- ・ 経済
- ・ ガバナンス
- ・ 人権
- ・ 社会



(出所)
FIFA World Cup Qatar 2022,
Sustainability Strategy (2019)

World Sailing サステナビリティ・アジェンダ2030



イベント運営を通じた 持続可能性の重点領域

- ・ 地域コミュニティとのパートナーシップ
- ・ 生物多様性
- ・ ジェンダー平等
- ・ 廃棄物の削減
- ・ CO2削減

(出所)
World Sailing, Sustainability Agenda 2030
(2016)

類型化

国際競技大会における持続可能性の領域と取組について

大会機能	領域	国際競技大会での持続可能性の取組モデル
招致・レガシー	都市計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都市計画に基づく大会の招致 ・ 開催都市や関連会場のアクセシビリティ向上の推進 ・ パートナーシップを通じた持続可能性の取組の推進
	アクセシビリティ	
	パートナーシップ	
競技運営	平等な参加機会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 女性競技の拡大等による男女平等の大会の実現 ・ 大会への平等な参加機会の提供 ・ 発展途上国や紛争地域からの選手の受入・援助
イベント運営	参加型大会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加型スポーツ大会の並行開催 ・ 体験型イベントの開催 ・ 再利用の徹底等による廃棄物の削減 ・ リース・レンタルの有効活用 ・ 関係者移動を最小限に抑えた大会運営 ・ 再生可能エネルギーの利用推進
	廃棄物の削減	
	CO2削減	
大会インフラ 調達・整備	既存施設の利用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存施設の有効活用 ・ エネルギー効率の高い会場の利用 ・ 会場等を新設する際の環境への配慮 ・ 障がい者等へのアクセシビリティ配慮
	環境アセスメント	
	アクセシビリティ	
マーケティング プロモーション	パートナーシップ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大会と観光施策のパートナーシップ ・ 地場産業とのパートナーシップ
組織運営	成長機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大会を通じたスキル育成プログラムの実施 ・ 教育コンテンツの制作・教育機関等への提供 ・ 男女格差の是正 ・ 女性が活躍する場の確保 ・ D&Iの推進 ・ 社会的マイノリティの活躍機会の確保及び採用 ・ 調達コードの導入、遵守 ・ カーボンオフセット事業の推進 ・ 公正な意思決定メカニズムの導入
	D&I	
	調達コード	
	カーボンニュートラル	
	透明性・ガバナンス	

パートナーシップによる持続可能性の取組の実現

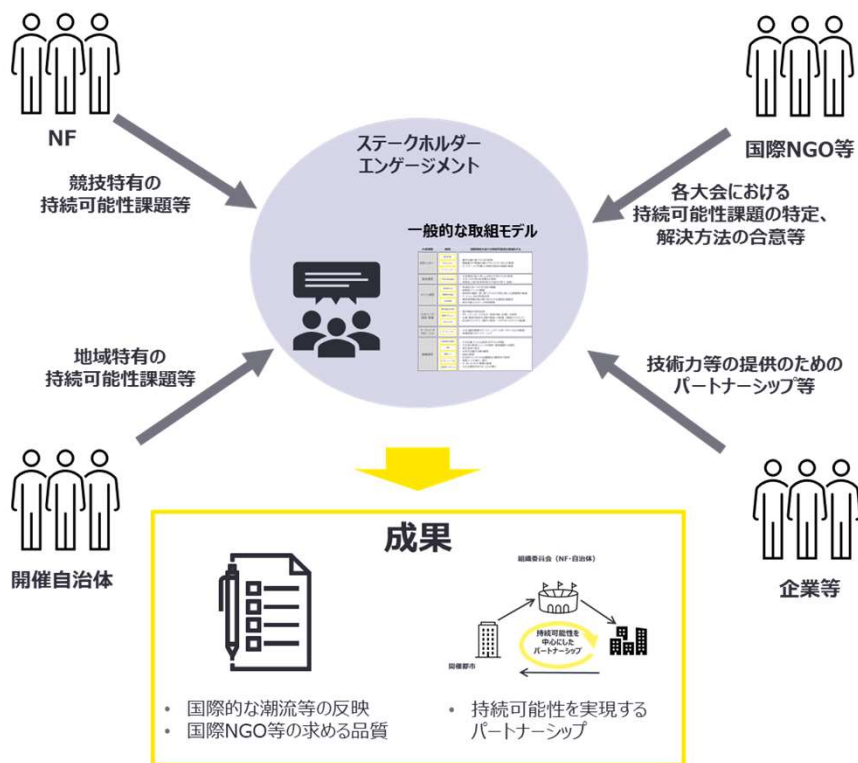
持続可能性の取組は、IOC方針やIF等の国際動向から重要な領域を理解することが可能であり、国内でもステークホルダーと連携した取組の好事例が生まれています。

ステークホルダーエンゲージメントを通じて
持続可能性の取組に重要なパートナーシップを実現



SDGsがゴール17にて、「パートナーシップで目標を達成しよう」と定義している通り、持続可能性の取組の実現には、パートナーシップが重要です。

ステークホルダーエンゲージメントを通じて、パートナーシップを実現



国際競技大会におけるパートナーシップ実現の事例

ワールドトライアスロンシリーズ横浜大会では、横浜市の「横浜ブルーカーボン事業」を活用し、大会のステークホルダーの事業課題と関連づけることにより、持続可能性の取組を「コスト」ではなく、事業課題解決に向けた「投資」的な位置づけに変換することに成功しています。

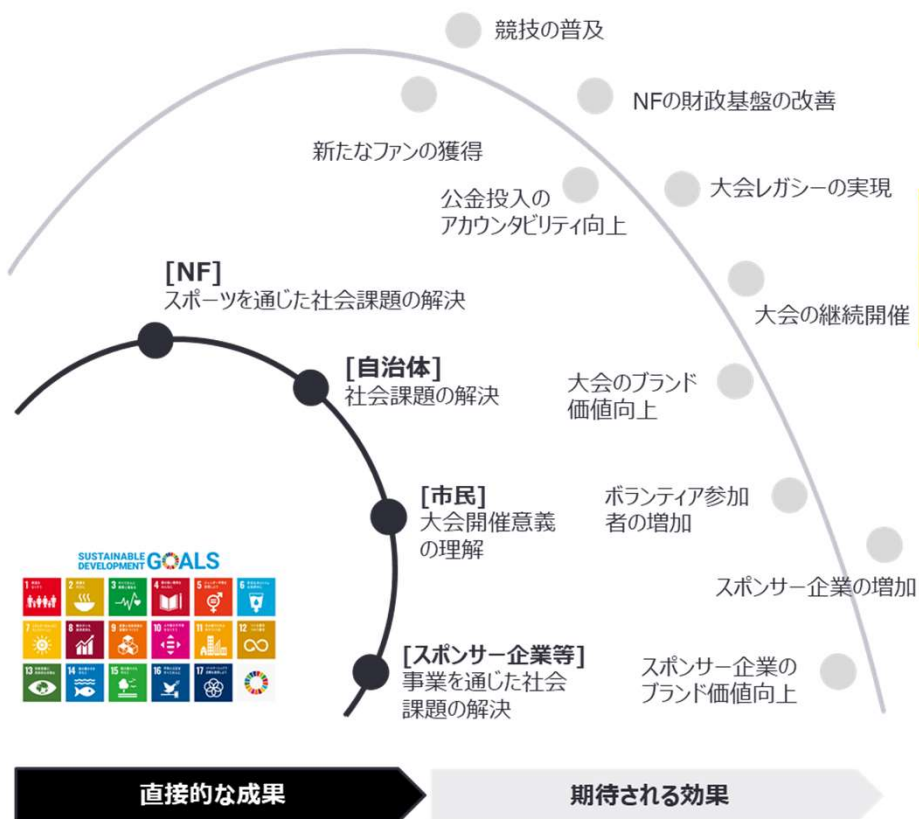
事例



持続可能性の取組を通じた大会自体の価値向上に加え、NF・自治体・スポンサー企業等のステークホルダーにとってポジティブな効果が期待できます。

持続可能性の取組により、大会の価値向上及びステークホルダーにポジティブな効果

大会を通じた持続可能性の取組により、大会やステークホルダー（NF・自治体・スポンサー企業等）の持続可能性ブランドが高まり、市民や市場に選択されることで、大会やステークホルダーに対する多様なポジティブな効果へ繋がることが期待できます。



国際競技大会の主要ステークホルダーに対する提言

大会やステークホルダーへポジティブな効果を生み出す持続可能性の取組を推進するにあたり、現状では課題が存在します。今後の国際競技大会の招致・開催にあたり、課題に対して取り組むべき施策案を示します。

提言概要	具体策（案）
1 [NF・自治体向け] 招致段階から持続可能性の取組の検討	招致段階での取組 <ul style="list-style-type: none"> ステークホルダーの課題・ニーズの把握 社会課題等の解決を織り込んだ大会の意義（コンセプト）の策定 パートナーの巻き込み開始
2 [NF・自治体向け] ステークホルダーエンゲージメントによるパートナーシップの実現	パートナーシップの構築 <ul style="list-style-type: none"> ステークホルダーエンゲージメントの実施を通じ、持続可能性の取組の実効性を高めることが可能な企業等とのパートナーシップの構築
3 [スポーツ庁等向け] 持続可能性取組のプロフェッショナル人材の育成	大会への人材提供支援 <ul style="list-style-type: none"> 助成金等を活用した専門人材の国際競技大会への提供 大会に向けた人材育成支援 <ul style="list-style-type: none"> スポーツ界の既存の人材育成プログラムを活用した専門人材の育成